

音楽科学習指導案

日時：平成30年11月13日(火) 第5校時
場所：南舎3階 第1音楽室
学級：3年A組 (男子18人 女子16人)
授業者：今井 慶太

1 題材における生徒の実態 題材名「仲間とともに、表現を工夫しよう」

本題材の目標は、学習指導要領「A 表現（ア）歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」にあたる。

3年A組は、歌うことに対して抵抗感はなく、前向きな態度で学習に取り組むことができる。よりよい発声をするために体を使って表現する練習に取り組む姿も見られる。一方で、これまでの学習を活かして表現を高めていこうとする意識には弱さがみられる。

そこで、本題材では、鑑賞、創意工夫の学習の中で感じ取った音や音楽のよさや音楽の要素を、歌唱教材「きみとともに」において音楽表現に生かす姿、題材を通して豊かな表現を追求する姿を生み出したい。本教材では、未来への希望と不安を抱きながら友とともに歩いていくという詩情豊かな歌詞と言葉の自然なまとまりを生かして作曲されている。また、歌詞の意味に寄り添うように強弱記号が付けられている。生徒が言葉を大切にしながら、歌詞の内容と旋律の動き、強弱の工夫をかかわらせて互いに表現を工夫する姿を期待する。

2 研究の主張点

(1) 研究内容1<「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫>

本題材の構成は、音楽に対する感性を働かせ、その働きで、自己のイメージや感情、生活などと関連付けるという見方・考え方を働かせて学習活動を進めるために、題材を貫く課題を共通事項に基づき設定した。まず、鑑賞曲『ブルダバ』において、曲の背景を理解するとともに、「情景の表現と音楽的要素、特に強弱のかかわり」に着目する学習活動を位置づける。次に、創意工夫の活動を通して「歌詞の抑揚と旋律のかかわり」を感じ取り、イメージを音の動きに表す活動を仕組む。その上で、歌唱教材「きみとともに」では、鑑賞、創意工夫の学習を通して感じ取った音や音楽のよさや、その根拠となる要素と、楽曲に対する自分の思いや意図をかかわらせ、仲間とともに表現を工夫する活動を位置づける。歌詞の内容と曲想にふさわしい表現を仲間と共に学びをつなぎ、より豊かな音楽表現を追求できるように題材構成を工夫した。

(2) 研究内容2<一人一人が課題解決できる手立ての工夫>

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

生徒が「こんなふうに演奏したい」という思いや意図をもって表現の工夫をするために、2つの手立てを講じる。1つ目は、拡大した楽譜の活用である。表現への思いや意図と表現の工夫との関わりを視覚化、共有化を図る。2つ目は、表現のために必要な技能のポイントの提示である。教師が模範を示すだけでなく、思いや意図を音楽表現につなげるために必要となる、体の使い方や、呼吸の仕方などの技能のポイントを、体の内部の図や息の流れ方をティッシュで表すなど、身のまわりにある物を用いて視覚化する。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

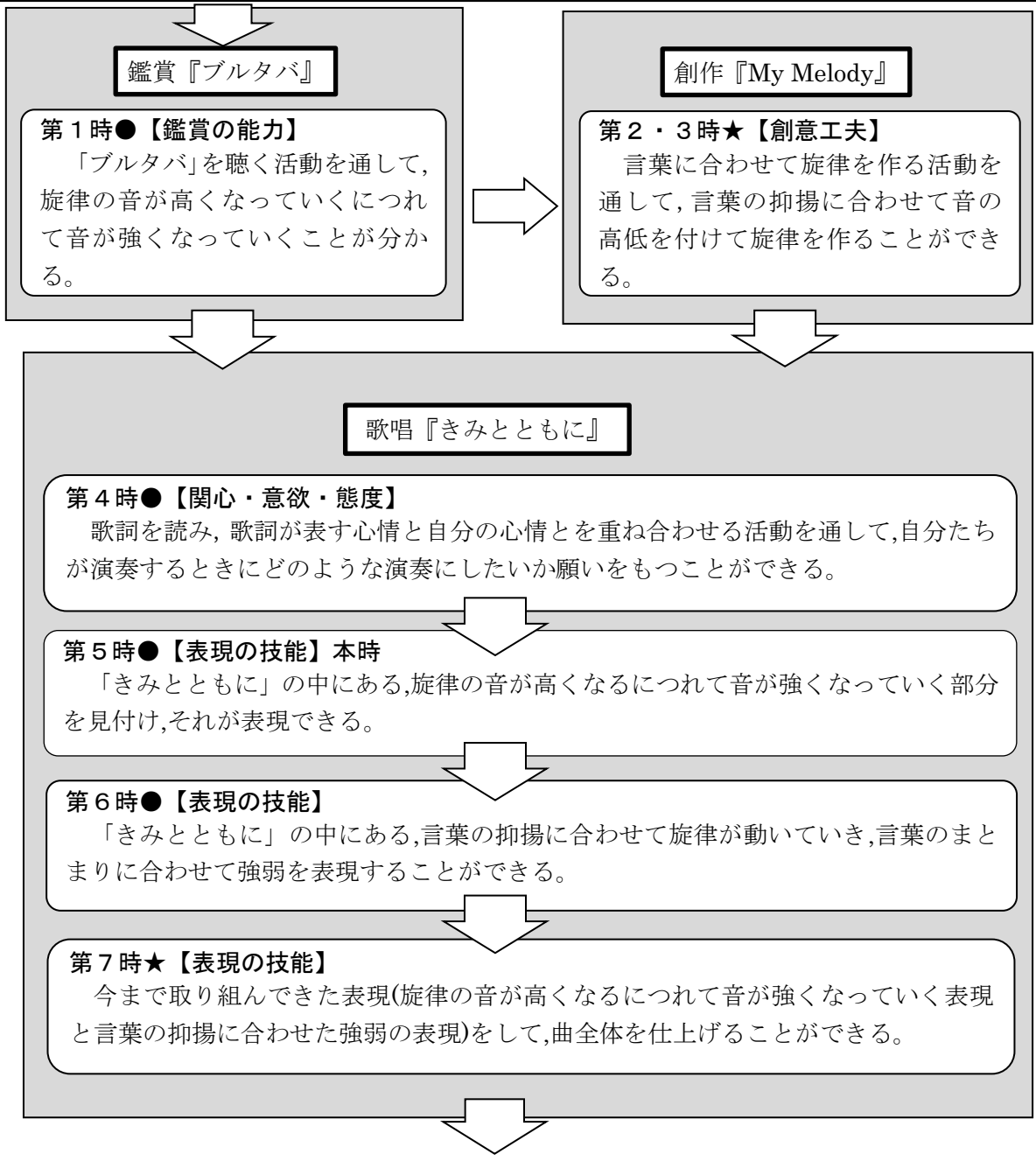
活動の中で生徒が自分たちの演奏を相互に評価する中間反省の時間を設けることで、上手いかわらないところに対して、どのような技能が必要なポイントを明らかにし、再度のパート練習で、よりよい表現を目指していきたい。その評価をするためには、課題に設定した内容を振り返り、何に注目して評価するのか、聴き取る観点を明確にする。そうすることで、課題に対して自分たちの技能が高まったかどうかを明確にすることができる。そして自分たちの演奏を振り返るワークシートを使い、毎時間振り返ることで、自分たちの学びの変容が分かるようにする。また、自分たちの授業前と授業後の演奏の変容を評価するために、録音や録画を行う。

3 題材構想図「仲間とともに表現を工夫しよう」(全7時間) ●:「習得」 ★:「活用・探究」

【学習の系統】

一年生: 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法, 身体の使い方などの技能を身に付ける。

(見方・考え方を形づくりに対して、強弱と素性を働かせ、働きを感じ取って、仲間と共に表現を工夫して歌おう。)



鑑賞『ブルタバ』

第1時●【鑑賞の能力】
「ブルタバ」を聴く活動を通して、旋律の音が高くなっていくにつれて音が強くなっていくことが分かる。

創作『My Melody』

第2・3時★【創意工夫】
言葉に合わせて旋律を作る活動を通して、言葉の抑揚に合わせて音の高低を付けて旋律を作ることができる。

歌唱『きみとともに』

第4時●【関心・意欲・態度】
歌詞を読み、歌詞が表す心情と自分の心情とを重ね合わせる活動を通して、自分たちが演奏するときどのような演奏にしたいか願いをもつことができる。

第5時●【表現の技能】本時
「きみとともに」の中にある、旋律の音が高くなるにつれて音が強くなっていく部分を見付け、それが表現できる。

第6時●【表現の技能】
「きみとともに」の中にある、言葉の抑揚に合わせて旋律が動いていき、言葉のまどまりに合わせて強弱を表現することができる。

第7時★【表現の技能】
今まで取り組んできた表現(旋律の音が高くなるにつれて音が強くなっていく表現と言葉の抑揚に合わせた強弱の表現)をして、曲全体を仕上げることができる。

<p>【知識及び技能】 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付ける。</p>	<p>【思考力, 判断力, 表現力等】 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。</p>	<p>【学びに向かう力, 人間性等】 主体的・協働的に表現の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。</p>
---	--	--

学習の系統: 歌唱
三年生: 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法, 身体の使い方などの技能を身に付ける。

